

平成14年度実施事業 詳細評価シート

担当部課	水道部工務課	直通電話	72-3135	事業コード	204010102	課内	2	作成日	平成15年8月8日
		担当者	清野 馨	担当課長	下野 進	担当部長			後藤 敏仁

1 事業のアウトライン

1) 事業名	水源対策事業	開始年度	S51	終了年度	H24								
		最近の事業内容見直し年度											
2) 総合開発計画での事業体系	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">施策コード</th> <th style="width: 90%;">大項目 / 小項目 / 細項目</th> </tr> <tr> <td>2040101</td> <td>水道、下水道の整備 / 水道の整備 / 安定的な水源の確保</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>					施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目	2040101	水道、下水道の整備 / 水道の整備 / 安定的な水源の確保				
施策コード	大項目 / 小項目 / 細項目												
2040101	水道、下水道の整備 / 水道の整備 / 安定的な水源の確保												
3) 個別計画での位置付け	石狩市水道事業計画(第7期拡張事業)												

2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	自己水源である既存地下水の有効利用を図り、コスト増の一因となる札幌分水量を最小限にする。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	関係する各浄水場における施設能力を最大限に発揮させ、既存地下水を有効活用することで、札幌分水量をできるだけ縮減する。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	地下水の有効利用を図るべく、関係する各浄水場系統の給水エリアの変更を行なう。 地下水の有効利用を尚一層向上させるため、仕切弁を計画的に整備する。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	特になし。
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	当市は海や川などの自然環境に恵まれ水が豊富なように思われるが、これらの水は既に水利権がなかったり、給水原価が高価となるなど水源としては使用できない。そのため当市では、地下水をもって飲料水などの主な水源としてきている。しかしながら、その量的確保や環境への影響などの観点から地下水は恒久的な水源とはなり得ず、昭和51年よりその不足量を札幌市より分水料金を支払い受水してきている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	自己水源である地下水は限りある資源であるため、市民の皆様に対して各種広報誌などを通じ、無駄のない水道使用をお願いする。
7) 評価中間公表への市民意見	なし

3 事業に投入した行政資源

項 目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)	953	468	468	413	旅費(札幌市)	55
2) その他の間接経費(千円)					備消耗品費	91
3) 従事正職員の人件費(千円)	3,451	3,482	3,459		賃借料など(例えば公用車リースやパソコンリース代)	322
総事業費(1~3の合計;千円)	4,404	3,950	3,927		H14 主な特定財源の内訳	
総事業費中の一般財源(千円)					建設改良費	3,927
市民一人当たり一般財源使用額(円)						
事務に従事した正職員のべ人数	0.42人	0.42人	0.42人			

4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
給水エリアの変更回数(回)	目標値	未設定	未設定	未設定	各浄水施設能力を踏まえ地下水の有効利用を図るべく、給水エリアを変更した回数。なお目標値は、その年の気象条件や水の使用状況などから異なるため、設定できない。
	実績値	13	19	17	
	達成率				
仕切弁の設置箇所数(箇所)	目標値	2	0	0	地下水の有効利用を図るべく、給水エリアを適切に設定できるように仕切弁を設置した箇所数。なお目標値は、前年度実績を踏まえ設置しているが、平成13年度以降は現状施設で当面对応できるため0箇所としている。
	実績値	2	0	0	
	達成率	100.0%			
	目標値				
	実績値				
	達成率				

5 事業の成果

事業名：水源対策事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
地下水の有効利用率 (%)	目標値	80.2	80.8	82.4	82.4	札幌分水を受水する花川北配水場を除いた、残りの浄配水施設(水源は地下水)の配水能力に対する平均稼働率。目標値は前年度実績の+0.5%です。(達成率が高いほど良好です)	管理年報
	実績値	80.3	81.9	81.9	目標レベル		
	達成率	100.1%	101.4%	99.4%			
	最終目標	平成24年度に85%					
全体取水量に対する札幌分水比率 (%)	目標値	16.0	16.2	14.7	15.2	当市全体での取水量のうち、札幌市からの分水量が占める比率。目標値は前年度実績の-0.5%です。(達成率が低いほど良好です)	管理年報
	実績値	16.7	15.2	15.7	目標レベル		
	達成率	104.4%	93.8%	106.8%			
	最終目標	平成24年度に14%					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	必要に応じ給水エリアの変更をしているので、概ね良好と判断する。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	給水原価を下げることの一要因である札幌分水量の縮減は、有効かつ必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	水源対策に市が関与することは、極めて妥当である。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	札幌分水量の抑制を図る今の事業内容は妥当であるが、利用者に「大切な水」のムダのない使用をさらに周知する必要がある。				

7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	地下水の有効利用は昨年と同じく図られたため、良好である。		課長評価を了承する。	

8 今後の方向性・課題

担当課長評価	現在は自己水源の地下水を最大限利用し札幌分水を抑えているが、今後の給水量の増加や既存施設の老朽化による施設能力の低下などで、札幌分水の増加が予想される。このことを踏まえ、引き続き水道部業務課と連携しつつ、市民に対し広く節水PRを行い理解が得られるよう努力する。
最終評価	本市浄水場施設等は、平成25年度より水道水源を当別ダムに求める方針もあって、施設の定期的な更新をせずに運営してきております。そのためこれら施設の老朽化による浄水能力の低下や、安定性の確保に苦勞しているのが現状です。しかしながら、地下水の有効活用を図ることは事業運営上極めて重要なことであり、今後も事業の健全化を図り、安全な水道水を安定して供給するため、施設の適正な維持管理を行ないつつ、市民の皆様に対し無駄のない水道使用のお願いを継続していかなければならないと考えております。

9 平成16年度の方向性

事業規模	*: 担当課長 : 最終評価	事業内容		
		現状維持	一部見直し	大幅見直し
拡大方向				
現状維持	*			
縮小方向				
統合				
休・廃止				
上についでの説明				